

## キヤノン株式会社

### 2024 年年間 決算説明会【QA まとめ】

**Q1. 2024 年の営業利益は減損損失の影響を除いても前回の公表値から下振れているが、要因は何か。**

**A1.** まず、中国・欧州の市況が改善しなかったことが挙げられる。また、プリンティング、メディカル、インダストリアルについては、受注を獲得していたものの装置の設置が顧客都合により後ろ倒しとなっていた。そして、米国の年末商戦に期待していたカメラとインクジェットプリンターについては、販売数量は想定の水準だったが、低価格モデルが中心となったことで売上が想定を下回った。

**Q2. 2025 年の営業利益率はフェーズⅥの目標値である 12%を下回っているが、次の 5 年計画のどのタイミングで達成しようと考えているのか教えて欲しい。**

**A2.** 2025 年は費用をかけ、構造改革に集中することにしたため、営業利益率の目標を達成できない見通しだが、構造改革による収益性改善により来年度以降早いタイミングで 12%を達成したいと考えている。目標の達成にあたっては、粗利率 47%以上、経費率 35%以下を前提にしており、経費率を中心に改善を進めていく。

**Q3. 経費率は、中長期的には何%まで下げていけると考えているか。**

**A3.** 当社で 1 番売上の大きい第 4 四半期のタイミングでは経費率 35%を下回っている。構造改革を実施し、経費率の改善を進めることに加えて、売上を順調に伸ばし年間 5 兆円に向かっていくことで、経費率は 34%から 33%台にまで達することができると考えている。

**Q4. 2026 年以降の 5 年計画で、どのように売上成長していくと考えているのか教えて欲しい。**

**A4.** 次の 5 年計画の具体的な検討はこれから行っていくが、成長の中心となるのはキヤノンにとって新規事業である「商業印刷、メディカル、ネットワークカメラ、産業機器」であり、投資を行っていく。商業印刷は、アナログからデジタルへの移行期であることに加え、昨年発表した Heidelberg 社との協業が今年から貢献してくることで売上を拡大していく。メディカルについては、構成比を将来的には 30%近くまで高めたいと考えているが、そのため

## キヤノン株式会社

### 2024 年年間 決算説明会【QA まとめ】

にはM & Aを含めた対応が必要と考えている。また、好調な半導体露光装置については、生産能力を増強し、需要の増大に応えていく。

**Q5. メディカルの将来計画をどのような前提で見直したのか。また、“のれん”残高があるメディカル、ネットワークカメラ、商業印刷について追加の減損リスクはあるのか。**

**A5.** 減損テストにおけるメディカルの将来計画の算定においては、売上は日本、欧州などの先進国は市場成長並の2%、好調なアメリカ、そしてインド・サウジアラビアなどの新興国は7%ほどの成長と見込んでいる。達成可能な保守的な販売前提のもと見直しており、追加的な減損リスクはないと考えている。買収したAxisやMilestoneに関連した“のれん”残高があるネットワークカメラは、特にAxisが販売好調である上に利益率も高まっており、問題がない。商業印刷については、旧Océに関連する“のれん”残高があるが、2017年決算で一部減損したことに加え、Océは黒字転換したのち収益性が向上しており、追加のリスクはない。

**Q6. メディカルの目標である売上高6,000億円、10%の営業利益率はいつ頃達成できるのか。**

**A6.** 売上目標については、2025年の計画がすでに目標の水準に近く、2026年には達成できると考えている。利益率については、事業革新委員会により改善施策を実行に移しており目標達成は可能と考えているが、短期的に効果がある施策と時間を要する施策があり、もう少し時間がかかると考えている。

**Q7. 生産構造改革について、効果が現れる時期と金額規模を教えてください。**

**A7.** 生産性を改善するため、今年から複数年かけて生産拠点の統廃合を行っていく。稼働率が低い、もしくは地政学的リスクが高い生産拠点について見直しをかけ、それによって稼働率が上昇しコストダウンが進み、同時に資産効率も高めるという狙いがある。ただ、生産装置の移転や新規の投資により費用が先行することになり、すぐに成果があらわれるわけではない。現時点では説明した以上のことは言えないが、具体的な計画をお伝えできる時期になったら改めて発表していく。

## キヤノン株式会社

### 2024 年年間 決算説明会【QA まとめ】

**Q8.** カメラについて、2024 年の為替を除く売上伸び率が+0.4%であることを考えると、2025 年の 9.3%の売上成長は高い目標であると捉えているが、どのように達成していくのか教えてほしい。

**A8.** 2024 年については、第 1 四半期に市中在庫の調整を行ったため年間の低い売上伸び率につながった。昨年末の市中在庫は健全な水準にあり、今年は 2024 年のように低成長からスタートすることはない。また、昨年下半年に発売した競争力のある新製品「EOS R5 Mark II」、「EOS R1」が通年で売上に寄与することに加え、高価格モデルの販売増加とともに、RF レンズの需要も増えていく。  
さらに、コンパクトカメラが若者の間でブームになっており、多くのバックオーダーを抱えている状況にあり、今年は増産対応により販売拡大につなげていく。

**Q9.** 2025 年のカメラについて、平均単価が下がるリスクはあるのか。

**A9.** 2025 年は、昨年下半年に発売した新製品、「EOS R5 Mark II」、「EOS R1」の販売が通年で売上に寄与するため、平均単価は上昇する。高価格モデルの販売が増加し、RF レンズの需要も高まってくる。加えて、バックオーダーを多く抱えているコンパクトカメラも高い価格で販売できており、売上・利益の成長に貢献する。

**Q10.** 2025 年のインダストリアルは、売上成長に対して営業利益の伸びが物足りないが、なぜか。

**A10.** 2024 年は半導体露光装置本体の販売に加えて、粗利率の高い装置オプションの販売が進み、利益率が高まった。2025 年についても、今後販売が伸びていけば、計画から上振れる可能性がある。また、宇都宮で建設中の新工場が 6 月に竣工を予定しており、償却費が若干コストアップ要因となっている。

**Q11.** ナノインプリントの販売状況についてアップデートがあれば教えてほしい。

**A11.** 2024 年は、Texas Institute for Electronics という研究機関に 1 台出荷し、第 4 四半期の売上に計上している。現時点では 2025 年の計画に織り込んでいないが、お客様との評価・検証は順調に進んでいる。

## キヤノン株式会社

### 2024 年年間 決算説明会【QA まとめ】

**Q12.** 配当と自社株買いを合わせた総還元について方針があれば、教えてほしい。

**A12.** 配当については配当性向 50%を目途としている。自社株買いについては、その時々で最善のタイミングをはかって実施しており、明確な方針はない。